

令和5年度「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」進捗状況について

- 目標値を定めているものではないため、評価基準は所管課における自己評価となります。
【 A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分だった D 不十分だった 】

業務内容(1) 地域住民のニーズ・生活課題の把握

→具体的な活動例：地域の会議に定期的に出向き、地域の方の声に耳を傾ける。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	通学路にかかる樹木等、地域で発生している課題を把握した。	B	会議開催数に応じた地域情報の把握ができた。
西部	地域ケアに来る、気になる相談者の状況を相談員を通じて把握した。	B	会議開催数に応じた地域情報の把握ができた。
東部	不登校児の地域課題、こども食堂の地域ニーズを把握した。	B	会議開催数に応じた地域情報の把握ができた。
南部	市内転居を控える障がい者の情報を把握した。	A	充実した会議開催数があり、地域情報を十分に把握ができた。

業務内容(2) 地域住民の活動支援・情報発信等

→具体的な活動例：地域の関係機関や団体へ出向き、地域資源の発掘を行う。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	地域ケア拠点で実施される体操が、毎日開催の取組みとして定着した。	A	地域ケアでの取り組みを定着させた。
西部	団地集会所で実施された取り組みが、サロン化につながった。	A	地域の取組をサロン化につなげた。
東部	こども食堂を実施できる会場として、地域資源を発掘した。	A	地域資源の発掘を行った。
南部	こども食堂の定着のため、寄り添った支援を行った。	A	地域資源の定着支援を行った。

業務内容(3) 行政や地域住民、NPO 等の地域づくりの担い手がつながるプラットフォームの展開

→具体的な活動例：地域ケアシステム推進連絡会の場を主体的に活用する。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	各地区で地域ケアシステム推進連絡会を開催した。	B	地域課題が議題として取り上げられなかった
西部	各地区で地域ケアシステム推進連絡会を開催した。	B	地域課題が議題として取り上げられなかった
東部	地域ケアシステム推進連絡会の場で、こども食堂の実施に向けた話し合いが行われた。	A	地域課題を議題として取り上げた
南部	各地区で地域ケアシステム推進連絡会を開催した。	B	地域課題が議題として取り上げられなかった

業務内容(4) コミュニティソーシャルワーカーの業務

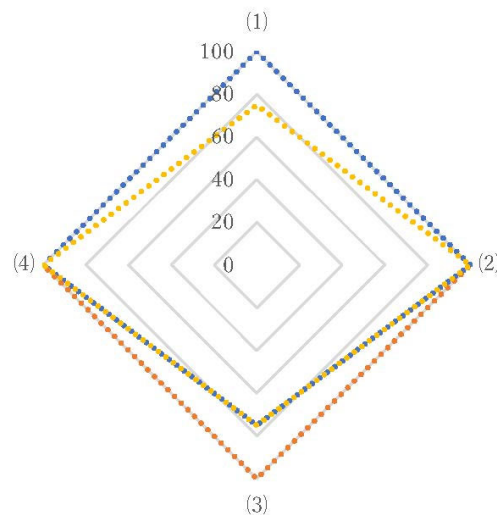
→具体的な活動例：地域の居場所づくりに向けた支援。個別ケースへの寄り添った支援。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	地域ケアにて、地域の見守りシステムの実施に向けた支援を実施している。	A	地域づくりのための支援が行われている。
西部	制度の狭間で悩む市民に寄り添った支援を行った。	A	個別ケースへの対応が丁寧に行われた。
東部	障害を抱える市民に寄り添った対応を行ったほか、こども食堂の実施を実現させた。	A	個別ケースへの丁寧な対応のほか、地域づくり支援により新たな居場所が作られた。
南部	複合課題を抱える世帯、障害を抱える個人等、多くの個別ケースに寄り添った対応を行った。	A	個別ケースへの対応が丁寧に行われた。

業務全体の達成度

※A評価を100点満点とし、以下、B評価75点、C評価50点、D評価25点として配点

●●●● 南部 ●●●● 東部 ●●●● 西部 ●●●● 北部



90.6点